

衆議院環境委員会ニュース

平成 20.6.3 第 169 回国会第 10 号

6 月 3 日、第 10 回の委員会が開かれました。

1 環境保全の基本施策に関する件

- ・鴨下環境大臣、桜井環境副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

末松 義規 君(民主)

- ・現行の石綿健康被害救済法において、中皮腫及び肺がん以外の疾病をなぜ指定疾病に追加しないのか。また、追加に向けた検討状況や追加の時期についてはどうなっているか。
- ・浄化槽の保守点検について、国の基準では年 4～5 回とされている一方で、岡山県、岡山市及び倉敷市の浄化槽水質管理実施要綱では月 1 回の点検を義務付けているが、合理的理由がなく問題ではないか。
- ・浄化槽の保守点検に要する時間の全国平均が 35.8 分であるのに対し岡山県では平均 20 分と極めて短い、その時間で十分な保守点検が行えるものなのか。

田名部 匡代 君(民主)

- ・生物多様性基本法第 13 条には都道府県及び市町村による生物多様性地域戦略の策定について規定されているが、生物多様性を守るための各地方自治体の取組の現状について環境省はどのように把握しているか。
- ・青森県が十和田湖畔で収容したオオハクチョウから、高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された事案につき、環境省は同県に対しウイルス検査の要請を行ったか。また、死んだ野鳥から鳥インフルエンザウイルスが検出された時の担当行政部局の対応マニュアルの策定状況はどうなっているか。

- ・死んだ野鳥を国民が発見した場合の処置として、廃棄物として処理できるとした国民へのお知らせは妥当か。

吉田 泉 君(民主)

- ・リサイクルの推進により、過去 15 年間で廃棄物の最終処分量を 70%削減できたとのことだが、この 70%削減に係る主な内訳はどうなっているか。また、その成果について大臣はどのように評価しているか。
- ・古紙利用とバージンパルプ利用の両者間の環境負荷の比較はどうなっているか。
- ・古紙利用率について、大臣はどれくらいの利用率を妥当と考えているか。

高木 美智代 君(公明)

- ・G8 環境大臣会合の成果と今後の課題について大臣はどのような見解を持っているか。
- ・我が国から途上国への地球温暖化対策に係る支援の具体的内容はどのようなものであるか。
- ・バイオ燃料の使用は食糧との競合の問題があるが、その使用について我が国は今後どのような方針をとっていくのか。

2 石綿による健康被害の救済に関する法律の一部を改正する法律案起草の件

- ・小島委員長から趣旨説明を聴取しました。
 - ・佐田玄一郎君(自民)、田島一成君(民主)及び江田康幸君(公明)から発言がありました。
 - ・衆議院規則第 48 条の 2 の規定により内閣の意見を聴取したところ、鴨下環境大臣から「特に異議はない。」旨の発言がありました。
 - ・採決を行った結果、全会一致をもって起草案を成案とし、これを委員会提出の法律案とすることに決しました。
- (賛成 自民、民主、公明、江田憲司君)

3 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律案(内閣提出第 64 号)(参議院送付)

- ・鴨下環境大臣から提案理由の説明を聴取しました。